

Kepatihan complex



ケパティハン複合施設は、スルタン・ハメンクブウォノ1世の時代に建てられ、当時は王国の首相であるパティ・ダレム(大臣のような役割)の執務室と住居を兼ねていた。また、スルタンの王子や王女の結婚式の祝賀会場としても使われた。王宮での結婚式後、新郎新婦はケパティハンに移され、ベクサン・エンテンやベクサン・ラウングなどの伝統舞踊が披露された。

日本占領時代(1942年)、スルタン・ハメンクブウォノ9世はパティ・ダレムの職務を引き継ぎ、執務室をケパティハンに移しました。彼はパティ・ダレムの職務を減らすために、パニラディヤと呼ばれる新しい部門を設立した。この部門は、書記、教育、経済などの様々な分野を管轄するパニラディヤパティによって率いられた。

最後のパティ・ダレムであるカンジェン・パンゲラン・ハディパティ・ハリヨ・ダヌレジョ8世が1945年8月1日に引退して以来、スルタンは新たなパティを任命しなかった。ケパティハン複合施設は引き続き、パニラディヤパティ・ウィヤタ・プラジャ(Paniradyapati Wiyata Praja)市長の執務室として使用された。1946年6月13日には、ジョグジャカルタ特別地域広報局としても一時的に使われた。現在は保存され、政府の事務所として使用されている。



Kompleks Kepatihan: Monumen Hidup Sejarah Jogja

<https://youtu.be/AsdRIVS12L0?si=RKymR-5PhwBIBoDF>

施設内について

グドホン・ウィリス (Gedhong Wilis):

この複合施設で最も古い建物。かつてはパティ・ダレム(王室宰相)とその家族の住居であったが、現在は DIY 州 (ジョグジャカルタ特別州 Daerah Istimewa Yogyakarta) 知事の執務室や来客対応の場として使われている。ケパティハン館の北西に位置している。

ダレム・アゲン (Dalem Ageng):

ジャワの伝統建築様式を持つ建物で、現在は DIY 州知事の会議室として利用されている。



ガドリ (Gadri):

かつては食事をする場所として使われていたが、現在は小規模な会議室になっている。



ブンドポ (Pendhopo):

ケパティハン館の中核をなす建物で、昔から現在まで、王宮で行われる「パンギッ (Panggih)」の儀式の後、スルタン (王) の子女の結婚披露宴の場として使用されている。また、DIY 州知事や副知事による公式行事や晩餐会も、この場所で開催される。

ケパティハン複合施設自体は、個別の世界遺産として登録されているわけではない。

「ジョグジャカルタの宇宙論的軸と歴史的建造物群」(The Cosmological Axis of Yogyakarta and its Historic Landmarks) という名称で、2023 年に世界遺産として登録された広大なエリアの一部に含まれている。

この世界遺産は、ジョグジャカルタのスルタンによって 18 世紀に定められた南北に走る約 6 キロメートルの軸線を中心としている。この軸線は、メラピ山とインド洋を結び、ジャワ文化の宇宙論的な信仰や、生命のサイクル (誕生から死ぬまでの課程) に関する考えを象徴している。

この軸線上の重要な建造物 (王宮、市場、モスクなど) や空間では、儀式や祭典、日常生活が何世紀にもわたって続けられており、ジャワ文明と文化の優れた証拠となっている。

ケパティハン複合施設も、この哲学的な軸線上に配置された重要な歴史的建造物の一つとして、世界遺産の一部を構成している。

まとめ

現在でも行政的な業務を行なっている場所であるため、中に入ることは出来なかったが、調べる中で、軸の中にあるジョグジャカルタの町の行政の基盤として大切な場所だと言うことがわかった。王宮は国の中心として、モスクは宗教的に、市場は商業の場としてそれぞれ意味があることがわかった。